



■ 年頭にあたってのご挨拶

理事長 金原 優

■ 自然科学書協会に期待すること

(株)紀伊國屋書店 高井昌史

■ フランクフルト・ブックフェア報告 /

出版・印刷人の集い報告

創立70周年記念会および祝賀会報告^{ほか}

2017.1.31 NO.1 (通算83号)

一般社団法人 自然科学書協会 | 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 | 神保町 101ビル1階 | TEL 03-5577-6301 | <http://www.nspa.or.jp/>

謹賀新年

年頭にあたってのご挨拶

一般社団法人 自然科学書協会

理事長 金原 優



二〇一七年を迎え、新春のお慶びを申し上げます。出版関係各位、また読者・執筆者の先生方をはじめ、日頃お世話になっている方々におかれましては新たな気持ちで新年を迎えられたことと思いません。

出版界は相変わらず厳しい環境の中で年を越しましたが、自然科学系の専門書、専門情報に対する読者・利用者の需要は決して減つてはいないと思います。読者・利用者が求める情報を適切かつタイムリーに出版し、日本の学術文化の更なる発展のために当協会は今年も会員社を通じて積極的に情報を発信して参ります。

昨年、当協会は創立七〇周年を迎えることができました。この七〇年間に日本の学術研究は飛躍的に発展し、日本は既に世界でも有数の科学立国として成長しました。この発展に自然科学書協会会員

社の専門出版物が大きく貢献したことは誰の眼から見ても明らかであり、当協会には日本の発展にその責任を果たすことができたと考えます。これもひとえに当協会を七〇年に亘って支えていただいた関係各位のご協力ご支援の賜物であり、七〇周年を機会に有難く厚く御礼申し上げます。

近年、出版は大きく様変わりしました。情報処理が電子化され、出版物を作る上でも利用する上でも電子技術は出版に不可欠となりました。とりわけ自然科学系の情報は膨大であり、読者・利用者が求める情報を迅速かつ適切に届けることを可能とする検索と伝達の手段を確保することも出版に課せられた使命です。自然科学領域の専門書出版は、単に出版するだけでなく、出版物に含まれる情報をどのように活用するかという利用の側面に着目しなければなりません。それは電子的な情報処理によって可能となることであり、情報の有効活用という観点から今後さらに研究を進めていかなければなりません。

自然科学系の専門書はそのほとんどが研究と教育目的に利用される出版物です。研究と教育分野も電子化が進んでおり、研究と教育の情報化の必要性が叫ばれています。出版情報が電子化され、広範囲な利用が可能となることによって利用の促進が図られ、研究と教育のより高い成果が得られることは当然です。著作権法を改正して出版物を利用者が自由に電子化して利用を促進したいという検討

が進められていますが、出版社はそういった利用にも自ら対応できる出版と流通の形態を提供していかなければなりません。研究と教育は、自然科学書協会ならびに会員社にとっては事業の主たる対象となる市場です。需要に対応し、利用者の様々な要望に応えていくことが必要です。

自然科学書協会は今年も、販売・出版展、著作・出版権、研修、広報、総務の各委員会ならびに税制・再販流通特別委員会における活動を積極的に展開して参ります。国内外で開催される各種のブックフェアにおける出版物展示、全国主要書店と共催で開催する展示会の開催、出版物の複写・複製ならびに著作権制度や侵害問題への取組み、自然科学領域における一般読者向けの講演会やセミナーならびに読者が気軽に参加できる書店店頭におけるサイエンスカフェ等の企画と運営等が今年も大きな事業です。

自然科学書協会はその会員社を通じて世界の自然科学専門情報を日本に伝え、日本の情報を世界に伝えます。自然科学領域の専門情報を世界で共有し、科学技術の発展のために広範囲で利用されることが重要です。当協会は七〇年の経験を生かし、日本を代表する出版団体の一つとして今後も積極的に活動します。関係各位のご指導とご協力をお願い申し上げます。



●●自然科学書協会に期待すること●●

電子化の取組みや海外での
ビジネス展開を

株式会社紀伊國屋書店

代表取締役会長兼社長 高井昌史

※本記事は、二〇一六年二月一日に行われた自然科学書協会七〇周年記念会での基調講演を編集部でまとめたものです。

本日はいただいたテーマ「自然科学書に期待すること」に、できる限り合わせてお話ししたいと思います。

今年(二〇一六年)一月から一〇月までの出版界全体での書籍・雑誌の販売額は、前年比九五・九%、マイナス四・一%であり、スマートフォンの普及や人口の減少、公共図書館の貸出し数の増加、新古書店の台頭、電子書籍の普及などの要因が考えられます。電子書籍の普及や公共図書館の貸出し増などから読書人口はそれほど減っていないという感じは受けますが、今後業界を挙げての改革が急務です。

そういう中で紀伊國屋書店の売上げについて申しますと、二〇一六年八月決算



自然科学書協会創立70周年記念会にて講演される高井昌史氏

(二二期)では、売上高は約一〇六〇億円で前年比二・五%の減収、ただし経常利益は一四億三〇六三万円の一七%増で六期連続の増益でした。現在、国内に六八店舗あり、この期間に川口と柏へ出店しました。閉店はありませんでしたが、八月には二〇年続けた新宿南店の和書売り場を撤収し、洋書専門店として国内最大級の品揃えの「Books Kinokuniya Tokyo」としてリニューアル・オープンしました。新宿南店の和書の撤収によって出版社さん、取次さんが大きな被害をこうむらないように、新宿本店の売り場面積と陳列スペースを拡張し、一二万冊くらい在庫を増やしました。

海外展開としては、ベトナムで六七割のシェアをもつ最大の書店FAHASA(ファハサ)と業務提携をして、日本の書籍の販売を始めました。一〇月にはミャンマーのヤンゴン空港にフランチャイズで出店、一二月にはアメリカ・テキサス州にテキサス・キャロルトン店を、二〇一七年三月には同じくテキサス・プレノ店を出店して、海外は九か国三〇店舗になります。二年後を目指して、アメリカ、日本、アジアで異なっている会計基準を合わせて連結していく予定です。

電子書籍について、現在の市場規模は一五〇〇億円程度で、コミックが一四九億円、文字ものが二二八億円あり、後者が紀伊國屋書店の「Kinoppy」の市場になります。売上げは伸びていますが、これは電子書籍の点数が増えたなりの伸びという状況です。電子雑誌は六〇〇誌以上がデータとして配信されているものの、単冊売りは伸び悩んでおります。

肝心の紀伊國屋書店における自然科学書の販売状況についてですが、医書・看護系で四二億一〇〇万円、自然系・工学系で四五億一〇〇万円、両方で八七億二〇〇万円の売上げがあり、そのうち店舗が四五億六〇〇万円、営業が四〇億三〇〇万円です。店舗では和書全体で四七四億円、営業では和書全体で三七億円なので、和書全体に対する割合は営業の方が店舗より高くなっています。

紀伊國屋書店の医書センターは、二〇一〇年七月に新宿本店四階に設定され、二〇一二年三月に五階に拡張移設し「新宿医書センター」として本格的に稼働を開始しました。一二九坪で棚数一五七本と、かなり充実していると思います。日本医書出版協会(JMPA)による全国の認定店八五店のうち、紀伊國屋書店では札幌本店、新宿医書センター、梅田本店、グランフロント大阪店の四店舗が認定店となっており、新宿医書センターの売上げは大体五億四〇〇〇万円です。

八月の新宿南店の和書撤収に伴い、新宿医書センターも拡充し、その結果、九月は前年比一〇八%、一〇月は一一二%でした。新宿南店の医書や看護書の購入者を新宿本店に移ってもらうことに一応は成功しているものの、もう少し売上げを伸ばしたいと思っております。なお医学系学会での医書の販売については、二〇一六年は外科学会、内科学会、小児科学会など一三八の学会・大会で展示・即売をしましたが、売上げは全部合わせても約二億一〇〇〇万円でした。医学系の学会でアピールすることで、紀伊國屋書店の医書に対するステージを高めること

ができると思います。外商では、外国雑誌の売上げのシェアが非常に高く、二二四億円を超えるくらいです。そのうちの八〇%がオンライン・ジャーナルとなっております。

紀伊國屋書店の電子化への取組みとしては、先に述べたKinoppyの会員は一七万人になってます。アメリカのEBSCOと提携して行っているNetLibraryは図書館四〇〇館に利用されています。講談社、KADOKAWAと合弁で始めた日本電子図書館サービス(JDLs)の「LibrariE(ライブラリエ)」はコンテンツが二万タイトルになりました。アメリカでは九〇%を超える公共図書館が電子書籍の貸出しサービスを実施していますが、日本ではまだ一・五%という状態で、電子化に対する取組みは絶対に必要だと思えます。

紀伊國屋書店では、電子化に対応するために、ICT(Information and Communication Technology)営業本部をこの一月につくりました。電子教科書をはじめ、教員や様々なニーズに対応して出版社と連携して電子コンテンツを積極的に販売し、市場の開拓をどんどん進めていきたいと思えます。とくに医学・看護系の分野は売上げとしてかなり良くなってきました。薬学部が六年制になり、看護学部が各県につくられ、今年八月に認可された新設大学も四校すべてが医療・看護系であり、また四〇年ぶりに医学部が認可・新設されるなど、医学系・看護系に対する高等教育が非常に充実してきております。それに伴って、医学や看護書、自然科学書も売上げが伸び

が非常に高く、二二四億円を超えるくらいです。そのうちの八〇%がオンライン・ジャーナルとなっております。

るのではないかと思っております。

紀伊國屋書店では、「BookWebPro（BWP）」という、学術研究に特化した一〇〇万件の和書・洋書の選書発注システムがあります。先生との直接のやり取りで年間六一万件を受注し、売上げは一八億円ぐらあります。また、図書館向けには「PLATON（図書館収書支援システム）」があります。一九九九年が利用して年間五八万冊の注文があり、売上げは三三億円です。また、大学における教科書販売額は人文系書籍も含めて年間約四五億円で、学生向けに「MYKITS（マイキッツ）：紀伊國屋書店教科書ストア」を開発し、学生から直接教科書を注文してもらうシステムもできています。

イベント企画では、定期的に自然科学書のフェア、科学と技術図書フェア、工学書フェアなどを各店舗でやっております。また、東京ビッグサイトで開催された「コンテンツ東京二〇一六 AI・人工知能ワールド」等に出店するなど、各種イベントにも積極的に参加しております。ぜひ出版社の皆様も、一緒になってお店でのイベントを行っていただければと考えております。

自然科学書に対する期待として、先ほどの繰り返しになりますが、大学が改革をしてきている状況の中、教科書や書籍の電子化について、いいとか悪いとか議論をしても始まりません。小学校・中学校が電子書籍で勉強しようという流れになるよりも先に、高等教育はもっと早く電子書籍化が進んでおります。アメリカでノーベル賞を取るような勉強の仕方は、

みんな電子版を利用しています。一次資料として書籍や雑誌にあたったりすることはありますが、すでに電子のデータベースになっている資料や情報も多いですから、もう紙がいらないという時代がすぐそこまで来ております。

出版社の皆様にはぜひ良質のコンテンツを紙と電子の両方で同時に出していただき、そして皆様の市場である大学や高等教育の現場にもっと積極的に広めていってほしいと思います。それについては、紀伊國屋書店が国内のみならず、海外へのコンテンツの配信なども皆様と一緒にやっていければと思っております。

海外のことを少しお話しします。

紀伊國屋書店は、先に述べましたように、北米やアジア・パシフィック、また中東のドバイなど、約三〇の店舗・営業所があります。英語の書籍が大体七割で日本語の本は一〇%くらい、多いところで二〇%、少ないところで五%くらいです。また海外の大学に出入りをして、東洋史料や日本関係の学術文献など、日本語の本を売っております。アメリカではコーネル大学、ミシガン大学、カリフォルニア大学バークレイ校、シカゴ大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、エール大学などで、約六億円くらいの年商を上げています。

アジアでは、タイのバンコクにASEANの営業本部を作り、バンコクからシンガポール、マレーシア、ベトナムなどでビジネスをしております。タイではチュラーロンコーン大学、タマサート大学、マヒドン大学など、シンガポールで

はシンガポール国立大学やシンガポール国立図書館、台湾では台湾中央研究院や台湾国立大学など、オーストラリアではオーストラリア国立大学などに営業を行っております。シンガポール国立図書館とは約二億円近い商売をしており、バンコクでも二〇〇万円クラスの取引があります。最近、IP&サイエンス（論文の引用分析のデータベース）を紀伊國屋書店からマレーシア工科大学に買っていただきました。約五〇〇〇万円です。これは元はトムソンのものなので代理店らしきものはありますが、紀伊國屋書店でやってほしいという依頼でした。ただ、マレーシア工科大学はこれをJICA（国際協力機構）からのお金で購入しております。最近JICAは、交通インフラやレントゲン設備、ビルなどだけでなく、ソフト関係にもずいぶんお金を出すようになってきています。二〇一六年九月にベトナムに開学した日越大学も三〇〇億円くらいはJICAの支援によるものです。JICAのお金が海外の大学や高等教育機関、文化活動に回ること、本の購買につながるのではないかと期待するところです。

ごく最近のニュースとして、一月二八日付の読売新聞夕刊に「高専ノウハウ「輸出」という記事が大きく出ました。国立高等専門学校機構が海外のアジアやアフリカへ高専の教育システムのノウハウを輸出することになったというものです。アジアの人たちと話をすると、やはりビルや道路を造ったりトンネルを掘ったりするには、技術者を養成しなければならぬが、日本に比べるとその育成が

非常に遅れていて、日本の高専の教科書や工学書などを英語に翻訳して技術者、とくに中堅の技術者を養成し、インフラ、そして国づくりを進めていきたいということですが、日本では、工業高校や大学、高専には教科書があふれればかりにありません。こういった工学関係の教科書「ソフト」のノウハウをベトナム、マレーシアなどアジア向けにつくっていただければいいなと思っていたところ、政府が教材開発や人材をサポートして、高専のテキスト等をもっと輸出していくという記事でした。自然科学書の国内での売上げ額が下がっていくのであれば、翻訳をして、海外での売上を一〇%でもあげて補っていただければよいのではないのでしょうか。工学書であれば、日本語のままでもよいかもしれません。例えばベトナムでは日本語が高く、日本語でも勉



高井昌史氏の講演風景(2016年12月1日、日本出版クラブ会館)

強をするので、流通をきちんとつくって届けてあげることができれば、日本語の書籍でもよいのではないかと思います。

また、例えば集英社に『キャプテン翼』というサッカーマンガがあります。中東ドバイの店舗では、英語版を売っていますが、アラビア語を読む人は五億人いるそうです。そこで、アラビア語版を出させて欲しいと集英社の方に言いましたら、「それはそうだ」ということで、紀伊國屋書店の企画でアラビア語に翻訳され、いま検閲を通じて、おそらく販売に入ります。アラビア語への翻訳書がもつと増えれば、難民キャンプの子どもたちも大変に喜ぶでしょう。また紀伊國屋書店では、先にあげた大学だけではなく、各種の日本人学校やインターナショナルスクールへの書籍の納入もたくさん行っています。ですから良いコンテンツをもっている出版社の皆様には、ぜひ海外でのビジネス展開も考えていただき、その中継ぎ・受け皿として紀伊國屋書店もお手伝いでできればと思っております。

一月一日に韓国のソウルに行つてまいりました。韓国ではこの日が「書店の日」に決まり、第一回の大書店大会で基調講演をお願いしますとの依頼がありました。一月一日は中国では独身の日らしいのですが、1111を横に並べると本の背表紙に見えることから、韓国では本の日、「書店の日」ということのようにです。韓国でも出版不況が深刻で、もともと日本の売上げの大体三分の一弱五〇〇億円くらいあったのが、どんどん減ってきて街の本屋さんがなくなつて

いる。これは何とかしなければならぬ、読書離れも食い止めなければならぬということ、日本と同じ状況になっていきます。ただ日本と違うのは、もうここで止めようと、官民が一緒になって、つまりソウル市が書店や出版社、日本という書協のような組織等も一緒になって活動に取り組んでいることです。ソウル市庁舎のイベントルームに大勢が集まり、書店を復活させよう、出版文化を取り戻そう、そして政治にロビー活動をしようという、大きなうねりとなっておりました。会合ではソウル市長が出て挨拶をされました。外庄ということではないですが、韓国ではこのように書店が盛り返した、このように街の本屋さんの火が灯ったという話を日本にもつてくると、日本の政治も少しは動くのではないかと思います。

韓国でもう一つ驚いたことがあります。アジア、いや世界で単独の店舗で一番売上げをあげているのは紀伊國屋書店の新宿本店と梅田本店と思っておりましたが、ソウル市庁のすぐ近くの一等地にある教保文庫は、ワンフロア二七〇〇坪で年商八〇億円だそうです。紀伊國屋書店の新宿本店は多層階一四〇〇坪ですから、若干負けているのではと思いつつ、「いい勝負ですね」と言っていました。教保文庫は韓国の本屋シェアの二〇、二五%をもっているようで、まさに巨大書店です。社長といろいろ話をする中で、「どうしてこんなにすごい店を作ったのですか」と尋ねると、「何度も紀伊國屋書店の新店本店に行つて勉強した」「最近は何度もTSUTAYAに行つた」「台湾の誠品書店を勉強した」「台湾の紀伊國屋書

店にも何度も行つた」とのことでした。紀伊國屋書店側は教保文庫にはまったく行つておらず、私が十年前にちょっと立ち寄っただけだったので、これは覚悟が違ふなと感じました。出版社の皆様もぜひ韓国に行つた際には、教保文庫の二七〇〇坪の巨大書店をご覧になり、多少なりとも刺激を感じていただければと思います。また、教保文庫と紀伊國屋書店が一緒になっていろいろなことをやっていることと提携話もしました。政治でガタガタしている文化交流もお粗末になってしまいますので、とくに出版文化の交流を一緒にやっていかなければならぬと感じた次第です。

私はいま一年に大体一〇回程度、海外に行つていきます。今週末はヤンゴンとバングコクに行きます。この夏には、金原理事長と一緒にニューヨークに行き、日米出版社の交流の会に参加してきました。日本の出版社は二〇人近く、アメリカの人たちが来ていました。この交流会はアメリカのニューヨーク総領事館で行いました。こちらには予算がない一方、ニューヨーク総領事館であれば文化交流には非常によいということ、食事もお酒も全部出てきました。最近は何省もそういうことを知り、「うちの方の予算を使つて、ニューヨークでもう一回、今度はマングでもアニメでもテーマにして、やつてほしい」というような話もあります。二週間ほど前には、マレーシアのクアラルンプールでマンガフェスティバルがありました。小学館、講談社、集英社、

KADOKAWAの方々のほか、マンガ家が四名、紀伊國屋書店のブースでサイン会を行つたりしました。クアラルンプールの国立劇場で行われている『NARUTO』の公演も鑑賞しました。二〇〇人以上入る大劇場で、若い人から年配の方までお客さんでいっぱいでした。公演は日本語で行われ、小さい英語の字幕がありました。私が何の話かと理解する前に、客席から笑い声や歓声が聞こえたり、「気合い」が入つたりして、この観客たちは日本語がわかるのかなと思議に思いましたが、おそらく何十回となくマンガを繰り返し読んでいて、日本語がわからなくてもその場面がわかるのでしょう。そういう人たちは、やはり良いコンテンツを強く求めていますから、ぜひ出版社の皆様も国際化を進めて、自分たちのコンテンツを堂々と海外に出していつてほしいと思います。

小学館もシンガポールに小学館アジアを出して、図鑑を英語化して販売しています。なかなか大変だと思いますが、現地では、星の図鑑や植物の図鑑などのコンテンツが非常に少ないので、継続してやつていく必要があります。日本には海外には少ないコンテンツがたくさんありますから、それを翻訳して広めていくということ、一社だけでなくみんなやっていく。そうすればコンテンツが増え、さらに注目されることになります。そういう時代が早く来ればいいなと思つて、海外に出張しております。

ご清聴ありがとうございました。

フランクフルト・ブックフェア 報告

去る二〇一六年一月一九日(水)から二三日(日)までの五日間、フランクフルト国際見本市会場にて「第六八回フランクフルト・ブックフェア」がテーマ国をフランダース/オランダとして開催されました。当自然科学書協会は、例年と同じく日本共同ブースの展示コーナーに一七会員社四三本の書籍を展示しました。今回もJ・L・I・tのご協力により、展示書籍の内容が事前に英文で準備され、J・L・I・tのウェブサイトに掲載されるとともに、会場でも展示図書に添付されました。

昨年同様に日本を含むアジア諸国は四号館の一階でしたが、今回は日本として統一感を全面に出した会場構成でした。そのためか日本会場は集客もよく、来場者にも好評だったようです。

フェア全体としては、出展社七一五三社(前年七一四五社)、入場者数二七八〇二三人(前年二七五七九一人)と微増



でした。

来年のフェアは二〇一七年一月一日(水)から一五日(日)と発表され、フランスがテーマ国として取り上げられます。

(販売・出展委員長 池田和博)

出版・印刷人の集い報告

二〇一六年一月二日(月)に第一九回「出版・印刷人の集い」が、東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催、一般社団法人出版協会と一般社団法人自然科学書協会の協賛で開催されました。

二部構成となっており、第一部は一六時から日本出版会館におきまして、明智光秀末裔の作家・歴史研究家明智憲三郎氏による「信長に学ぶ弱者の戦略」と題した講演会が行われました。参加者は二〇名でした(主催者発表)。

第二部は一七時三〇分から会場を日本出版クラブ会館に移動して懇親会となりました。主催者を代表して同協議会会長の日岐浩和氏(中央印刷)による開会の挨拶に始まり、協賛団体から出版協会理事長今村正樹氏(借成社)の挨拶、当協会金原優理事長の乾杯の音頭で懇親会が始まり、途中恒例の豪華景品が当たる抽選会も行われ、和やかな雰囲気での交流の場となりました。

最後に同協議会前会長の山岡景仁氏(三美印刷)の中締めで閉会となりました。

(広報委員長 吉野和造)

第六六期理事会・委員会開催一覧 (二〇一六年一月〜二月)

- 理事会
一月二四日(木) 一二月定例理事会
一五時〜一六時三〇分 日本出版クラブ会館
- 専門委員会
一月二日(水) 著作権・出版権委員会
一三時〜一五時 日本出版クラブ会館
- 一月二日(水) 販売・出展委員会
自然科学書フェア小委員会/一六時〜一七時 日本出版クラブ会館
- 一月一日(金) 七〇周年記念事業特別委員会記念会小委員会/一三時三〇分〜一五時 協会事務所
- 一月一日(月) 七〇周年記念事業特別委員会記念会小委員会/一〇時〜一四時 日本出版クラブ会館

■ 事務局だより

〈代表者の変更〉

● 医歯薬出版株式会社
旧・大畑秀穂 新・白石泰夫

■ 事務所仮移転

● 一般社団法人家の光協会
住所：東京都新宿区市谷船河原町一

仮移転先…

東京都港区虎ノ門二一八―一〇

虎ノ門15森ビル5〜7階

※電話・ファックス番号は変更なし。

※移転スケジュール

平成二九年一月五日(木)から

一月末(予定)まで。

編集後記

お伊勢参りに行きました。といっても、一昨年の話ですが。もちろん、地元の氏神様に「これから厄除けに行つてまいります」と報告し、二見興玉神社で禊(みそぎ)をすませてから、いざ伊勢神宮(下宮)へ。

そのお蔭か、本厄は風邪も引かずに過ごすことができました。が、しかし、昨年趣味でしている某スポーツの都大会で、サード長嶋を意識したトリックプレーを試みたら、右膝を大きく捻つてしまい、即退場を余儀なくされました……。診断結果は、前十字靭帯断裂と半月板損傷で、二回に分けた手術が必要となりました。まさか自分がそんな大怪我をしているとは思っていなかったの、かなり凹みました。

そこで同時に考えたのが、本厄後の昨年、御礼参りをしていなかったことです。そうか、御礼を怠つたからバチがあつたのかと……(実際は、加齢により身体の動きが鈍くなったのが怪我の原因なのです)。今年の酉年は、リハビリをしつつかり行い、サードゴロもちゃんと捕り、ギャグを発するために頭は捻つても、けつして膝を捻つて鳥肌が立つようなことがないよう、趣味も仕事も、ミスターのように明るくこなしていけたらと思っております。

新年早々、私的な編集後記となり

ましたが、二〇一七

年も自然科学書協会

をよろしくお願ひ申

し上げます。

(S・I)

自然科学書協会創立七〇周年 記念会ならびに祝賀会

自然科学書協会は昨年一二月に七〇周年を迎え（一九四六年創立）、一二月一日（木）一六時より日本出版クラブ会館（きくの間）で創立七〇周年記念会を行いました。出席者は一三六名でした。南條副理事長による開会挨拶の後、基調講演として紀伊國屋書店の高井昌史代表取締役会長兼社長にご講演いただきました（講演内容は本紙二、四頁参照）。

講演に続いて登壇した金原理事長は、来賓の方々への感謝を述べられ、大要、次のようにご挨拶申し上げました。

一九四六年、戦後混乱期の最中に当協会が創立されたのは、専門書を出版するもの同士が集まって問題を解決しなが



創立70周年記念会 会場風景（日本出版クラブ会館）



相賀昌宏 様



牛尾則文 様



船坂良雄 様



平林 彰 様



筑紫恒男 副理事長



金原 優 理事長

ら、専門書出版を振興・流通させて戦後の混乱期を乗り切り、日本を復興するためであろう。現在の日本が世界でも屈指の研究開発を行い、多数のノーベル賞受賞者を輩出しているのも、当協会会員社が発行してきた出版物が日本の科学技術の進歩に少しでも貢献した結果ではないか。関係するすべてのの方々への感謝を表したい。また、日本の優れた研究成果をさらに世界に流通させるためにも自然科学書の英語での出版が不可欠であり、今後当協会がその役割を担っていかねければならない責任を痛感している。さらに、情報の伝達手段が電子に変わり、世界に同時発信が出来る環境が整ったことによるメリットを享受する一方、違法複製や権利侵害なども起きており、電子的な流通に対して複製権や著作権が守られる仕組みを今まで以上に考えていかねければならない。自然科学書協会として、向こ

う十数年の間に考えていかねければならない沢山のことを、会員社と出版関連領域の方々とともに検討・研究し、より良い環境を作っていかなければならない。最後に、日本の自然科学系書籍の出版が促進され、ひいては日本の出版界全体が潤っていく、そのような世界をつくりていきたいとご挨拶申し上げました。式典では、ご来賓を代表して、文部科学省研究振興局学術機関課課長・牛尾則文氏と、一般社団法人日本書籍出版協会理事長・相賀昌宏氏に祝辞を頂戴しました。牛尾氏は、学術機関課が大学の研究所を担当していることから、自然科学書は同課に必要不可欠な存在であり、専門家だけでなく一般の方々にも自然科学の面白さ等を知らしめる機会を提供していることへの謝意を述べられるとともに、多くの研究者が「日本語で研究できること」が、日本の科学が発展する最大のメ



創立70周年記念祝賀会 会場風景

リット」と語っていることを紹介し、英語での情報発信とともに、日本語での自然科学書の出版が日本の自然科学をより一層発展させるであろうことから、当協会に大いに期待している旨語られました。祝賀会は同会館（鳳凰の間）で一七時三〇分より行われ、金原理事長の挨拶に続き、ご来賓を代表して一般社団法人日本出版次協会会長・平林彰氏の祝辞、そして日本書店商業組合連合会会長・船坂良雄氏の乾杯の発声で宴は始まり、参加者は親睦を深めたり、旧交を温めたりと、熱気に包まれたひとときは、筑紫副理事長の中締めで盛会のうちに終了しました。ご臨席いただいた皆様方に改めて感謝申し上げます。

（七〇周年記念事業特別委員会

記念会小委員会 吉野和浩）